

性急な思想

石川啄木

青空文庫

最近数年間の文壇及び思想界の動乱は、それにたずさわった多くの人々の心を、著しく性急せつかつにした。意地の悪い言い方をすれば、今日新聞や雑誌の上でよく見受ける「近代的」という言葉の意味は、「性急せつかつなる」という事に過ぎないとも言える。同じ見方から、「我々近代人は」というのを「我々性急せつかつな者共は」と解した方がその人の言わんとするところの内容を比較的正確にかつ容易に享入うけいれ得る場合が少くない。

人は、自分が従来服従きたし来つたところのものに対して或る反抗を起さねばならぬような境地（と私は言いたい。理窟りくつは凡て後から生れる者である）に立到り、そしてその反抗を起した場合に、その反抗が自分の反省（實際的には生活の改善）の第一歩であるという事を忘れてゐる事が、往々にして有るものである。言い古した言い方に従えば、建設の為の破壊であるという事を忘れて、破壊の為に破壊している事があるものである。戦争をしている国民が、より多く自国の国力に適合する平和の為という目的を没却して、戦争その物に熱中する態度も、その一つである。そういう心持は、自分自身のその現在に全く没頭し

ているのであるから、世の中にこれ位性急な（同時に、石鹼玉のように張りつめた、そして、いきり立った老人の姿勢のように隙だらけな）心持はない。……そういう心持が、善いとも、又、悪いとも言うのではない。が、そういう心持になった際に、当然気が付かなければならないところの、今日の仕事は明日の仕事の土台であるという事——従来の定説なり習慣なりに対する反抗は取りも直さず新らしい定説、新らしい習慣を作るが為であるという事に気が付くことが、一日遅ければ一日だけの損だというのである。そしてその損は一人の人間に取っても、一つの時代に取っても、又それが一つの国民である際でも、決して小さい損ではないと言うのである。

妻を有ちながら、他の女に通ぜねばなくなつた、或はそういう事を考えねばならなくなつた男があるとする。そして、有妻の男子が他の女と通ずる事を罪惡とし、背倫の行為とし、唾棄すべき事として秋毫寛すなき従来の道德を、無理であり、苛酷であり、自然に背くものと感じ、本来男女の關係は全く自由なものであるという原始的事実に論拠して、従来の道德に何処までも服従すべき理由としては無いのだと考えたとする。其処までは可い。もしもその際、問題の目的が「然らば男女關係の上に設くべき、無理でなく、苛酷でなく、自然に背くものでないところの制約はどんなものであらねばならぬか」という

事であるのを忘れて了^{しま}つて、既に従来の道徳は必然服従せねばならぬものでない以上、凡^{すべ}ての夫が妻ならぬ女に通じ、凡ての妻が夫ならぬ男に通じてても可いものとし、乃至^{ないし}は、そうしない夫と妻とを自覚のない状態にあるものとして慙^{あわ}れむに至つては、性^せ急^つもまた甚^{はなは}だしいと言わねばならぬ。その結果は、啻^{ただ}に道徳上の破産であるのみならず、凡ての男女関係に対する自分自身の安心というものを全く失つて了^{おなじ}わねば止^やまない、乃^{すなわ}ち、自己その物の破産である。問題が親子の関係である際も同^{おなじ}である。

二

右の例は、一部の人々ならば「近代적」という事に縁が遠いと言われるかも知れぬ。そんなら、この処に一人の男（仮令^{たとえ}ば詩を作る事を仕事にしている）があつて、自分の神経作用が従来の人々よりも一層鋭敏になつてゐる事に気が付き、そして又、それが近代の人間の一つの特質である事を知り、自分もそれらの人々と共に近代文明に醸^{かも}されたところの不健康（には違ひない）な状態にあるものだと思つたとする。それまでは可い。もしもその際に、近代人の資格は神経の鋭敏という事であると速^{そく}了^{りよう}して、あたかも入学試験の

及第者が喜び勇んで及第者の群に投ずるような気持ちで、（その実落第者でありながら。――
――及第者も落第者も共に受験者である如く、神経組織の健全な人間も不健全な人間も共に
近代の人間には違いない）その不健全を^{たの}恃み、かつ誇り、更に、その不健全な状態を^{こうし}昂
進すべき色々の手段を採つて得意になるとしたら、どうであろう。その結果は言うまで
もない。もし又、そうしなければ^{いわゆる}所謂「新らしい詩」「新らしい文学」は生れぬものと
すれば、そういう詩、そういう文学は、我々――少くとも私のように、健康と長寿とを欲
し、自己及自己の生活（人間及人間の生活）を出来るだけ改善しようとしている者に取つ
ては、無暗に^{むやみ}強烈な酒、路上でも交接を遂げたような顔をしている女、などと共に、全
然不必要なものでなければならぬ。時代の弱点を共有しているという事は、如何なる場合
の如何なる意味に於ても、かつ如何なる人に取つても決して名誉ではない。

性急^{せつ}な心^{かち}！ その性急な心は、或は特に日本人に於て著るしい性癖の一つではあるま
いか、と私は考える事もある。古い事を言えば、あの武士道というものも、古来の迷信家
の苦行と共に世界中で最も性急な道徳であるとも言え言える。……日本はその国家組織
の根底の堅く、かつ深い点に於て、何れの国にも^{まさ}優っている国である。従つて、もしも此
処に真に国家と個人との關係に就いて真面目に疑惑を^{いだ}懷いた人があるとすれば、そ

の人の疑惑なぐさ乃至反抗は、同じ疑惑を懷いた何れの国の人よりも深く、強く、痛切でなければならぬ筈はずである。そして、軌近ばんきん一部の日本人によつて起されたところの自然主義の運動なるものは、旧道德、旧思想、旧習慣のすべてに對して反抗を試みたと全く同じ理由に於て、この国家という既定の権力に對しても、その懷疑の鋒ほこさき尖を向けねばならぬ性質のものであつた。然し我々は、何をその人達から聞き得たであらう。其処そこにもまた、呪のろうべく慙あわれむべき性急な心が頭を擡もたげて、深く、強く、痛切なるべき考察を回避し、早く既に、あたかも夫に忠実なる妻、妻に忠実なる夫を笑ひ、神經の過敏でないとこの人を笑うと同じ態度を以て、国家というものに就いて真面目に考へている人を笑うような傾向が、或る種類の青年の間に風ふうを成しているような事はないか。少くとも、そういう實際の社会生活上の問題を云々うんぬんしない事を以て、忠実なる文芸家、澆はつちやう漓りたる近代人の面目であると、或いように見せている、或いは見ている人はないか。實際上の問題を輕蔑けいべつする事を近代の虚無的傾向であるといふように速了している人はないか。有る——少くとも、我々をしてそういう風に疑わしめるような傾向が、現代の或る一隅たしかに有ると私は思う。

性急な心は、目的を失った心である。この山の頂きからあの山の頂きに行かんとして、当然経ねばならぬところの路を踏ま^{みち}ずに、一足飛びに、足を地から離れた心である。危い事この上もない。目的を失った心は、その人の生活の意義を破産せしめるものである。人生の問題を考察するという人にして、もしも自分自身の生活の内容を成しているところの實際上の諸問題を軽蔑し、自己その物を軽蔑するものでなければならぬ。自己を軽蔑する人、地から足を離している人が、人生について考えるところそれ自体が既に矛盾であり、滑稽^{こっけい}であり、かつ悲惨である。我々は何をそういう人々から聞き得るであろうか。安撫なる告白とか、空想上の懷疑とかいう批評のある所以^{ゆえん}である。

田中喜一氏は、そういう現代人の性急^{せつかち}なる心を見て、極めて恐るべき笑い方をした。曰^{いわ}く、「あらゆる行為の根底であり、あらゆる思索の方針である智識を有せざる彼等文芸家が、少しでも事を論じようとすると、觀察の錯誤と、推理の矛盾と重疊^{ちようじよう}百出^{ひゃくしゅつ}するのであるが、これが原因を繹^{たず}ねると、つまり二つに帰する。その一つは彼等が一時の狀態を永久の傾向であると見ることであり、もう一つは局部の側相^{そくしやう}を全体の本質と考えることである」

自己を輕蔑する心、足を地から離れた心、時代の弱所を共有することを誇りとする心、そういう性急な心をもしも「近代적」というものであったならば、否、所謂「近代人」はそういう心を持つているものならば、我々は寧ろ退いて、自分がそれ等の人々よりより多く「非近代的」である事を恃み、かつ誇るべきである。そうして、最も性急ならざる心を以て、出来るだけ早く自己の生活その物を改善し、統一し徹底すべきところの努力に従うべきである。

我々日本人が、最近四十年間の新しい経験から惹き起されたところの反省は、あらゆる意味に於て、まだ浅い。

もしも又、私が此処に指摘したような性急な結論乃至告白を口にし、筆にしながら、一方に於て自分の生活を改善するところの何等かの努力を営み——仮令ば、頹廢的という事を口に讚美しながら、自分の脳神経の不健康を患うて鼻の療治をし、夫婦關係が無意義であると言いながら家庭の事情を緩和すべき或る努力をし、そしてその矛盾に近代人の悲しみ、苦しみ、乃至絶望があるとしている人があるならば、その人の場合に於て「近代的」という事は虚偽である。我々は、そういう人も何時かはその二重の生活を統一し、徹底しようとする要求に出会うものと信じて、何処までも将来の日本人の生活についての信念を

力強く把持^{はじ}して行くべきであると思う。

青空文庫情報

底本：「石川啄木集（上）」新潮文庫、新潮社

1950（昭和25）年5月10日発行

1970（昭和45）年6月15日30刷改版

1991（平成3）年3月5日58刷

入力：鈴木厚司

校正：鈴木厚司

1999年5月16日公開

2005年9月25日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

性急な思想

石川啄木

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>